

施策マネジメントシート(平成24年度の振り返り、総括)

作成日 平成 25 年 6 月 18 日

基本目標	V	豊かな心と文化を育むまち	主管課	名称	教育課
				課長	岡田 宏一
施策	27	生涯学習の推進	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図	
	①町民	①生涯を通じて自主的に学習する。	基本事業	1 学習意欲の高揚	意欲や関心がない人	生涯学習への意欲や関心を高める。
				2 学習機会の充実	生涯学習に取り組んでいる人、意欲や関心がある人	学習する機会を得られる。
				3 学習環境の整備	生涯学習に取り組んでいる人、意欲や関心がある人	学習する場を確保できる。
				4		
				5		

成果指標	成果指標名		単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	A	日頃から、生涯学習を行っている町民の割合	%	実績値	35.5	27.4					
B	文化協会加盟団体登録者数	人	実績値	1,331	1,314	1,207					
			目標値		1,320	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320	1,320
C	生涯学習施設利用者数	人	実績値	13,700	13,865						
			目標値		14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000
D			実績値								
			目標値								
E			実績値								
			目標値								
F			実績値								
			目標値								

**指標設定の考え方と実績値の把握方法**

A) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。  
 町民アンケートにより把握  
 ※あなたは日頃、テーマを持って学習活動に取り組んでいますか。→「ほぼ毎日」、「週に1日以上」、「月に1回程度」、「年に数回程度」と回答した人の割合

B) 文化協会登録団体者数（自らの教養を高めるための学習活動を行っている人達）であり、数値が変わらずに推移すれば目標が達成できているといえるため成果指標とした。

C) 中央・水上・新治の3公民館で生涯学習のために利用した人数であり、数値が高まれば目標が達成できているといえるため成果指標とした。

**目標値設定の考え方**

A) 生涯学習を行っている人(文化協会など)には高齢者の割合が高い。若い人の参加が鈍いことを考えると、今後、学習を行っている人の割合が徐々に減少すると想定される。  
 平成20年度水準(35.0%)を維持し、町民の3人に1人以上が生涯学習を行っている状態をめざす。

B) 文化協会加盟者は、高齢者が多く人数も減少傾向である。現状を維持するため各文化団体を支援し町文化祭への参加と充実。また生涯学習活動のきっかけを作る事業を実施し、文化協会に加盟してもらえるような自主活動グループの育成をめざす。

C) 施設利用者数は町内教育委員会管理施設で開催されている各教室、講座等の延べ数。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①生涯学習の必要性を感じ、生きがいとなるような学習活動を行う。 ②学習の楽しさを広め仲間づくりを行うなど、普及啓発に取り組む。 ③指導者となり、さらには後継者を育成する。	①生涯学習の機会の提供や契機づけを行う。 ②生涯学習施設の整備と管理運営を行い、生涯学習を行うための場を提供する。 ③生涯学習を行う人・団体の活動を支援する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①生涯学習を行う人に高齢者の割合が高い。若い人の参加が鈍いため、今後、生涯学習に取り組む人数は減少する見込み。 ②生涯学習に関して、今後5年間で法的に大きな変更はない。 ③社会教育委員会で、図書室のあり方を検討する。 ④平成24年～26年にカルチャーセンターの空調・照明・ステージ装置・駐車場など大規模改修を実施する。 ⑤社会情勢により就職のための学習などを若い人達が行う可能性がある。 ⑥高齢者の利用が増加するため、利便性の良い施設が必要となる。 ⑦身近な場所で利用できる施設の確保をしていく。	①文化活動をしていない一般町民が手軽に学びたいという声があり、公民館講座の再開を希望する声がある。 ②各団体の講習会等開催チラシ配布の依頼や後援等の支援要望がある。文化祭の会場設営では、各団体から手伝いを出していただいて設営運営しているなど、住民の意識は高くなっている。 ③図書室に置かれている本を検索することができないなどの声がある。 ④生活に密着した講演会等は人気もあり参加して良かったとの声がある。 ⑤施設によっては、バリアフリーが必要という声がある。

施策	27	生涯学習の推進	主管課	名称	教育課
				課長	岡田 宏一

施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	実績比較		背景・要因	
	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	<p>①日頃から生涯学習を行っている町民の割合は、平成23年度35.5%から平成24年度27.4%と約8.1%減少している。年代別にみると、60歳代が32.4%と最も高い割合となっており、30歳代23.9%、40歳代で23.8%と低い割合となっている。仕事や家事などに追われ「忙しくて時間がとれない」状況と思われる。さらに、20歳代で「ほぼ毎日」が16.2%と高いことから、就職難の中、採用試験等に向けての学習の意識が高まったことが要因と推測される。</p> <p>②文化協会登録者は、年々高齢化が進み活動できなくなる団体もあり人数も減少傾向である。</p> <p>③各公民館は活動の拠点となっており、サークル活動や学習会等が行われているが、利用者は横ばい状況である。なお今回の利用者実数には、カルチャーセンターは含まれていない。</p>	
		② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	<p>①一般に公民館講座と呼ばれているような町民向けの学習講座が少ない。近隣の中之条町では講座が潤沢に開催されている。また、郡内では昭和村が生涯学習大会や夏の親子映画祭などの他、公民館活動も行われており、川場村・片品村においても教養講座や文化展、高齢者学級等が開催されている。</p> <p>②文化協会の活動は、近隣市町村と比べても自主的に企画立案しており、活動内容の充実(研修会、講習会、後継者育成等)が図られている。平成24年度郡内の文化協会人数は、昭和村533人 川場村424人 片品村226人である。</p> <p>③図書館のない自治体は、県内35市町村のうち、みなかみ町を含め14町村である。一方で、カルチャーセンターは沼田文化会館に比べ、適切な規模であったり使用料も低く設定しているなど、使いやすい状況にある。平成24年度に生涯学習のために利用した人数は約14,000人。</p>
			③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。
成果実績に対する総括	<p>①文化・社会教育の振興を図るため、公募により、活動団体に対して文化活動補助事業補助金(計420千円)を6団体に交付した。</p> <p>②文化水準の向上、生涯学習への意欲の向上のため文化祭を開催し、各団体日頃の学習成果の発表の場を設けている。</p> <p>③社会教育委員連絡協議会において、社会教育に関する諸計画の立案、会議の開催、研修会へ参加したことで、社会教育委員としての資質の向上ができた。また、図書館の在り方の検討小委員会を設け、町内4つの図書室を視察し今後の方向性を協議している。</p> <p>④中央公民館図書室を平成24年7月より日曜日も開室し、利用者の利便性を図った。</p> <p>⑤平成24年度の生涯学習大会は、カルチャーセンターにおいて歌手の中島啓江さんを招き「生きる力」 ありがとうは魔法の言葉～と題して記念講演を開催。他に中学生による少年の主張、文化協会加盟団体の舞踊や民謡などの活動発表を行った。参加者は約150名であった。</p> <p>⑥みなかみ町の町名に由来する、若山牧水の「みなかみ紀行」をテーマに全5回の学習講座をカルチャーセンターにて開催、定員以上の参加者があり町民の関心の高いことがわかった。人数の都合上参加できない方も多かったため25年度も引き続き実施する。</p> <p>⑦カルチャーセンターの空調設備工事・照明設備工事を実施。ホール部分のボイラー交換、各会議室のエアコンによる冷暖房、照明をLEDに交換等、将来的なランニングコストの削減につながる改修を行った。</p>			

今後の課題と取り組み方針(案)	基本事業名	今後の課題	平成26年度の取り組み方針(案)
	1 学習意欲の高揚	生涯学習に意欲、感心のない町民に対し取り組みへの意識付けが必要である。	各種団体と連携し生涯学習大会や講座実施、社会教育委員を活用し興味・感心を引く内容を検討する。生涯学習の楽しさや必要性の啓発、生涯学習へ取り組むためのきっかけづくりを行う。
	2 学習機会の充実	町民の学習ニーズに応じた学習の機会を増やしていく。自主的に学習活動するグループの活動を支援し、指導者の育成を図る必要がある。	若山牧水の「みなかみ紀行」をテーマとした学習活動の自主学習グループを形成するための支援をする。与謝野晶子の生き方と歌の魅力を学習する講座を継続する。生涯学習大会等、学習成果の発表の場を提供する。
	3 学習環境の整備	公民館の利便性を高めるよう施設整備し、利用者の生涯学習を推進する。 図書室のサービスを向上するため利用環境の整備が必要である。	生涯学習の拠点となるカルチャーセンターは、舞台の照明、音響設備等の改修工事を行う。 図書室は、キッズスペースやイス・机等の有効配置による利用しやすい環境整備。
	4		
5			